

2007年(平成19年)2月19日(月曜日)

浅井歯科技研

三品 富康社長(52)



歯科医師からの注文を受けて入れ歯や差し歯を作っている会社です。口の中はとてみアクリートで、髪の毛一本分でもズレがあると、患者さんは違和感を覚えます。ですから商品はすべて手製のキャストムーブド。あまり目立ちませんが、高い技術の結晶であると言っています。

# 高精度の手作業誇り

月曜・トップバッター

## わが社の魅力

昨年はわが社の創立四十周年の節目であると同時に、歯科技工の世界にとっても大きな変革の年となりました。セラミックの一種「ジルコニア」が厚生労働省の薬事認可を受け、差し歯や冠の材料に使えるようになったのです。

従来使っていたアルミナ（酸化アルミニウム）に比べ、ジルコニアは金属に近い強さを持っていますが、かみ合わせも考えなければいけません。それこそ髪の本分以下の精度が必要で、歯科技工士には大変なストレスがかかります。コンピュータによる設計ですが、わが社では



学校の理科の実験室のような明るさとにぎわいがある歯科技工室 大府市横根町

見かけます。最初から最後まで、需要は増えてい

浅井歯科技研 1966年1月創業。歯科技工物製造販売をはじめ、がんや事故などのため、顔など体の一部を失った人のための補綴（ほてつ）物なども製造している。資本金1000万円。従業員54人。うち歯科技工士38人。（大府市横根町）

す。余裕がある団塊世代の人たちがもつ歯に関心をもちようになると、市場はさらに広がる可能性があります。

経営者として希としているのは吉本興業さんです。人気が出て高収入を得られるようになったタレントも、あまり勢いづくに元気がよく働きますからね。うちも技工士の個性を生かした集団であり続けたいと思っています。

(松本芳孝)